



## 第35回書学書道史学会大会を終えて

萱 のり子

令和7年10月25日（土）・26日（日）、奈良教育大学講堂を会場として第35回書学書道史学会大会が開催されました。初日の小雨は幸い大きな天候の崩れにいたらず、穏やかな日和となりました。学会員の参加に加え、奈良教育大学書道科の学生および地域の参加者を特別に許可いただいたことで、両日あわせて212名（うちオンライン26名）の参加がありました。

会場校として準備を進める間、会員の方々には奈良ならではの書文化を、未来へ向かう学生たちには学術研究の刺激を、地域の方々には書文化交流の活性を、是非とも感じ取つてもらえる大会にしたいという思いがありました。関係各位のご理解ご協力のもと、開催にいたりました

●書学書道史学会

会報

第50号

令和8年(2026)1月15日発行  
編集・発行  
書学書道史学会  
広報局  
〒100-0003  
東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
パレスサイドビル7F  
(株)毎日学術フォーラム内  
TEL (03)6267-4550  
FAX (03)6267-4555  
MAIL maf-syogaku@mynavi.jp

たことに厚くお礼を申し上げます。

初日には奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長の馬場基氏を外部講師としてお招きし、シンポジウム「簡牘にみる書文化の源流」を催しました。中国簡牘については会員の福田哲之氏・井田明宏氏より最新の研究成果を提供いただき、馬場基氏には朝鮮半島・日本の木簡研究の現況を報告いただきましたこと、東アジア文化としての「書」について考える機会となりました。

2日目の記念講演は、奈良国立博物館名譽館員の西山厚氏が「聖武天皇の書と光明皇后の書」をテーマにお話くださいました。講演の中では、本年度開催の正倉院展に出陳されている、廬舎那仏の開眼に使われた筆に關する言及もあり、奈良時代から今に伝わる書文化の実相を生き生きとした言葉で届けてくださいました。

また、大会期間中の企画展示として「学び舎の筆華—奈良教育大学の書と蔵書」を教育資料館にて催しました。拓本に關しては、事前に役員各位より本学所蔵の準貴重書の中から出品の推薦を得て、特に王羲之関係のものを展示しました。併せて、本学書道科で教鞭をとつた教員の書作を展示し、近現代の肉筆を鑑賞していただきました。

研究発表は例年より多く全11件、若手中堅の発表が多数あり、時代や視点も多岐にわたっています。質疑も活発に行われ、密度の濃い展開でした。初日夕刻からの懇親会には学生会員含む76名の参加があり、賑やかな交流の一時になりました。

奈良は今日も墨や筆などの産地ですが、地域産業を支えるマンパワーは必ずしも十分ではありません。大会終了後、有難いことに地域参加者の方から「学術研究にふれる機会を得て、改めて環境の見直しがはかれそうだ」との声が届いております。

今大会の準備から開催にいたるまで、役員ならびに関係各位に終始ご高配ご尽力を賜りました。会場においては教員間の連携のもと、大学院生を中心に協力体制を組んで、奈良教育大学の学生諸氏が連日実働を支えてくれました。皆さまのおかげをもちまして、第35回大会を盛会に開催することができましたことに心より感謝を申し上げます。有難うございました。

（編集局長・開催校責任者）

## 西山厚氏「聖武天皇の書と光明皇后の書」

第35回大会一日目最後に、西山厚先生による講演会が開催されました。西山先

生は長年にわたって奈良国立博物館に勤務され、正倉院宝物をはじめとする貴重な書跡の調査研究や展示を手掛けられました。今年で77回目となる「正倉院展」ですが、西山先生は担当者としてそのうち31回にかかり、今回のテーマである聖武天皇の書、光明皇后の書も手ずから展示されてきました。現在は同館名譽館員、帝塚山大学客員教授、東アジア仏教文化研究所代表などを務められ、文化財に関する教育や普及にも尽力されています。

「講演ではまず、16歳で結婚した聖武天皇と光明皇后が、やがて待望の男児を得てほどなく皇太子にしたこと、手立てを尽しながらもその愛児を喪い、はじめに誕生した女児を初の女性天皇として立てたことなどからはじまり、天皇夫妻をめぐる出来事とその心情のうつろいを、史料や史跡を取り上げながら語つていただきました。東大寺の廬舎那仏を建立した聖武天皇は、開眼の詔に「動物も植物とともに榮える世の中をつくりたい」と

いう、「華厳經」を背景にした言葉を記しています。これも天皇の愛情と責任感から発した考え方です。

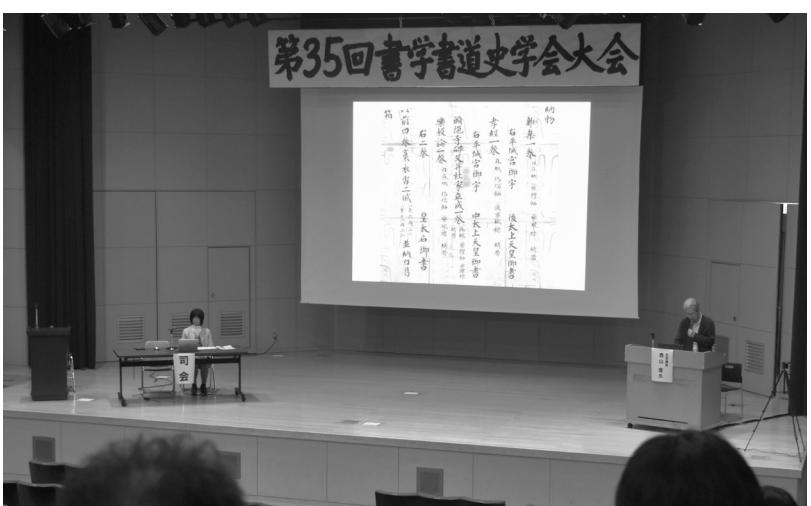
この聖武天皇と光明皇后にまつわる4巻の書巻が、「國家珍宝帳」冒頭の「御袈裟」「厨子」に続いて記録されています。聖武天皇筆の「雑集」、元正天皇が書いた

とされる「孝經」、光明皇后筆の「杜家立成」と「樂毅論」がそれになります。先生は、これらの書がどうして毘盧遮那仏に献納され、国家の重宝とされたのかについて、詳しくお話し下さいました。

「雑集」には聖武天皇の姿勢を伝える詩文が選ばれていること。そして自らが筆を執つて驚異的な集中力で書き上げたものであること。「孝經」は当時の日本人が最も重んずべき孝について説き、それを聖武天皇の実質的な母ともいえる元正天皇が揮毫したといわれるものであること。「樂毅論」と「杜家立成」は、皇后の父である藤原不比等をはじめとする藤原家

にゆかりの深いものである可能性があること。皇后がこの4件の書巻を大仏様に献じたことの意味が重層的に理解できました。

最後に、奈良市内の小学生を対象に、聖武天皇の書を通して書に親しむための活動に取り組んでいらっしゃる様子の紹介がありました。王羲之書法の系譜にある聖武天皇と光明皇后の書が、先生の活動を通して今日の文化として息づいていることがよくわかりました。文化財に対する深い理解と実践的で多様な活用方法の提示は、わたしたち会員にとつて貴重な示唆となつたものと思います。



西山厚氏

聖武天皇筆の「雑集」、元正天皇が書いた

## 第35回大会シンポジウム報告

企画局

## 「簡牘にみる書文化の源流」

萱 のり子

今大会シンポジウムは標記をテーマに会場校企画として実施いたしました。パネリストとして外部講師の馬場基氏、会員の福田哲之氏、井田明宏氏に登壇いただき、3氏の基調報告を通して、東アジア文化としての書について大きな視野で考える企画としました。シンポジウム前半は各氏による基調報告、後半はパネリスト相互の討議およびフロアとパネリストとの討議という構成です。

はじめにテーマに関わる企画の趣旨として、①環境的要因と文化生育との関係②出土系の書と「伝世」の書との関係③現代社会における文化的課題、への着眼を司会の萱より説明し、各氏の基調報告に移りました。

馬場氏の基調報告では、そもそも木簡とはどういうものを指すか、発掘し出土するということ、即ち木簡が「殘る」ということの条件や要因などへの言及がありました。大陸から地続きの朝鮮半島と海を隔てた日本との出土傾向の相違、両者の影響関係の有無など地理的・歴史的双方からの説明によって、中国との関係が捉えやすくなりました。地域による書写技能や書き方の差異を「身体技法」という観点からみると、個人の経験的修得の面と社会システムとしての成熟の面とが重なりあうことが示唆されました。

福田氏の報告では、中国戦国期の書籍（戦国竹書）をめぐり、古文の実態解明に向けた最新の研究成果を紹介しつつ「書体」の認識や定義に関わる視点が提示されました。

井田氏の報告では、中国長沙市五一広

場から出土した簡牘を中心に取り上げ、後漢時代中期の書の実相を捉える視点、特に楷書系・行書系という新書体の位置への考察がありました。

木簡や竹簡が出土した場所、その範囲、文字の現れを具体的に探ることで、伝播の経路や要因、さらにその脈流や源流へと体系的な研究につながる視点が見えます。パネリスト間の討議においては、研究のプラットフォーム共有と拡充の課題が挙がり、情報ネットワークを構築することで時代や地域の関係性を多角的に検証する意義が確認されました。個々の字姿のデータ集積により、ある特徴をもつ姿を新たに「書体」として認識したり既存の定義を再考したりすることができるようになります。

当日時間の都合で取り上げることのできなかつたフロアからの質問や意見の中に、木簡・竹簡の個別具体的の様子に関するものが多数あり、時代や地域による傾向や差異に关心が向けられていることが分かりました。こうした点への着眼は、研究においてだけでなく文化振興や教育普及においても重要で、現代における書文化の課題に通じています。

書文化の源流へ目を向ける今回のテーマは、昨年のシンポジウム「書の人文情報学」で提示された課題や可能性とリンクしてきます。書学書道史に關係する学際的な研究や共同研究への糸口も見えたように思われます。



馬場基氏

令和6年度会計決算報告書  
(2024年4月1日～2025年3月31日)

| 項目   |                | 決算額        |
|------|----------------|------------|
| 収入の部 | 個人会員会費         | 2,214,000  |
|      | 団体賛助会費         | 200,000    |
|      | 大会参加費          | 526,500    |
|      | その他の収入         | 41,671     |
|      | 本年度収入 合計       | 2,982,171  |
|      | 前年度繰越金         | 8,187,928  |
|      | 前年度未払金         | △1,871,701 |
|      | 収入合計           | 9,298,398  |
| 支出の部 | 編集局経費          | 742,712    |
|      | 「学会展望」準備費      | 98,000     |
|      | 渉外局経費          | 92,400     |
|      | 企画局経費          | 64,900     |
|      | 大会運営費（企画局）     | 557,731    |
|      | 例会運営費（企画局）     | 18,425     |
|      | 講師謝金費（企画局）     | 150,000    |
|      | 振興局経費          | 623,280    |
|      | 会報編集費（広報局）     | 59,621     |
|      | ホームページ委託費（広報局） | 220,000    |
|      | 会議費            | 28,500     |
|      | 選挙管理委員会費       | 0          |
|      | 名簿作成発行費        | 0          |
|      | 通信費            | 241,432    |
|      | 事務消耗品費         | 88,661     |
|      | 事務委託費          | 731,500    |
|      | 会計顧問料          | 55,000     |
|      | 東洋学・アジア研究連絡協議会 | 2,000      |
|      | 日本書道文化協会       | 30,000     |
|      | 予備費            | 0          |
|      | 本年度経費 合計       | 3,804,162  |
|      | 次年度繰越金         | 7,619,543  |
|      | 本年度未払金         | △2,125,307 |
|      | 支出合計           | 9,298,398  |

令和7年度予算案  
(2025年4月1日～2026年3月31日)

| 項目   |                | 予算額       |
|------|----------------|-----------|
| 収入の部 | 個人会員会費         | 2,300,000 |
|      | 団体賛助会費         | 300,000   |
|      | 大会参加費          | 400,000   |
|      | その他の収入         | 0         |
|      | 本年度収入 合計       | 3,000,000 |
|      | 前年度繰越金         | 5,494,236 |
|      | 収入合計           | 8,494,236 |
|      | 編集局経費          | 700,000   |
| 支出の部 | 「学会展望」準備費      | 100,000   |
|      | 渉外局経費          | 80,000    |
|      | 企画局経費          | 50,000    |
|      | 大会運営費（企画局）     | 400,000   |
|      | 例会運営費（企画局）     | 30,000    |
|      | 講師謝金費（企画局）     | 130,000   |
|      | 振興局経費          | 630,000   |
|      | 会報編集費（広報局）     | 60,000    |
|      | ホームページ委託費（広報局） | 220,000   |
|      | 会議費            | 30,000    |
|      | 選挙管理委員会費       | 150,000   |
|      | 名簿作成発行費        | 150,000   |
|      | 通信費            | 200,000   |
|      | 事務消耗品          | 50,000    |
|      | 事務委託費          | 800,000   |
|      | 会計顧問料          | 55,000    |
|      | 東洋学・アジア研究連絡協議会 | 2,000     |
|      | 日本書道文化協会       | 30,000    |
|      | 予備費            | 4,627,236 |
|      | 本年度経費 合計       | 3,867,000 |
|      | 次年度繰越金         | 0         |
|      | 支出合計           | 8,494,236 |

## 令和7年度総会報告

## 事務局

本年度の総会は、令和7年10月25日（土）、奈良教育大学講堂にて行われました。総会に先立ち、菅野智明企画局長の進行のもと大会の開会式が行われ、続いて河内利治理事長より挨拶がありました。総会は、事務局長の司会で進行しました。最初に、河内理事長より挨拶があり、審議においては、橋本貴朗会員を議長として進められ、いずれの議案も承認されました。

（1）令和6年度会計決算報告、事業・活動報告、会計監査報告について  
(増田知之会計局長、尾川明穂事務局長、丸山猶計監事)  
(2) 令和7年度予算案、事業・活動計画案について  
(増田知之会計局長、尾川明穂事務局長、丸山猶計監事)  
(3) 会則改正について  
(4) その他

◆審議事項  
①企画局  
②渉外局  
③振興局  
④編集局  
⑤広報局  
⑥会計局  
⑦事務局◆報告事項  
①各局報告

（菅野智明企画局長）  
（富田淳渉外局長）  
（成田健太郎振興局長）  
（菅野智明企画局長）  
（高橋利郎広報局長）  
（増田知之会計局長）  
（尾川明穂事務局長）  
（丸山猶計監事）

\*総会で配付した書類のうち、（資料1）「令和6年度会計決算報告書」、（資料4）「令和7年度予算案」（いずれも備考欄を除く）を本ページに掲げました。

## 新入会員紹介

## 事務局

## ◆一般会員

## ◆学生会員

齊藤正起（大東文化大学大学院）  
藤井郁子（関西大学大学院）  
大野絢暉（鹿児島大学大学院）  
植森克昌（奈良国立大学機構奈良教育大学）  
増田郁美（篆刻美術館）  
齊藤正起（大東文化大学大学院）  
藤井郁子（関西大学大学院）

※令和7年4月～12月に申請された方

## 2026年度 書学書道史学会例会 研究発表者募集要項

### 企画局

### 研究倫理遵守のお願い

### 理事長

次年度の例会は、左記のとおり開催いたします。会員各位には、日頃の研究成果を意欲的かつ積極的に発表いただきたく、奮つてご応募ください。なお、次年度の例会も外部講師による講演を併催する予定です。

#### 記

- ①開催日／方法…2026年7月12日（日）午後オンラインによるライブ配信とします。それに応じたIT機器を扱つていただきますので、ご承知おきください。
- ②発表者数／時間…3名程度／各30～45分（発表20～30分、質疑応答10～15分）
- 昨年度と同様に、必要に応じ大会での研究発表よりも発表時間や質疑応答の時間を長めに確保し、議論を深めることも視野に入れてています。発表時間は右記の範囲で希望者各位と個別に相談させていただきます。
- ③申込方法…Eメールにて左記事務局宛にお申し込みください。件名には必ず「書学書道史学会発表申込（※発表希望者氏名を付す）」と明記してください。また本文の冒頭に「所属・氏名・連絡先」を記したのちに、発表内容の題目および発表内容の要旨をレジュメ（800字程度）にまとめて提出ください。
- ④レジュメ…原則として、パソコン（テキスト形式、Wordファイル形式のいずれか）で作成し、申込時のEメールに、ファイルを添付して送信してください。
- ⑤申込締切…2月27日（金）必着
- ⑥発表者の決定と連絡…3月下旬開催予定の理事会にて協議・決定し、採否の結果は個別に連絡いたします。
- ⑦レジュメ集の公開…5月発行予定の『会報』51号にて公開します。この内容はホームページにも掲出いたします。

#### ※注記

- 例会の発表者については、学会誌『書学書道史研究』第37号への投稿申込があつたものとして扱われますので、改めて学会誌への投稿申込を行う必要はありません。
- 学会誌への論文投稿締切は、2027年3月31日となっております。投稿後、原稿掲載の採否は論文査読委員会によって決定されます。

#### お問い合わせ先

書学書道史学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル7F（株）毎日学術フォーラム内

メールアドレス : maf-syogaku@ymail.jp

FAX : 03-6267-4555

昨年10月に刊行された『書学書道史研究』第35号において、研究倫理に抵触する論文の投稿が確認されました。本会では、投稿時に「書学書道史研究投稿チエックリスト」に基づき、二重投稿・盗用・剽窃をしていないことや、所属機関の倫理規則の遵守、著作権の尊重について誓約をいただいております。

理事会では今回の事案を受け、健全な学術活動を維持するため、研究の信頼性向上を目指した指針の策定などを検討しております。

まもなく第36号の投稿締切を迎ますが、書学書道史に關わる研究をよりよいものにするため、会員各位には改めて研究倫理の遵守をお願いいたします。

### 藝術学関連学会連合への加盟申請について

標記の藝術学関連学会連合は、日本学術会議協力学会研究団体として活動する14の学会で構成されるコンソーシアムで、「藝術に関する専門的研究を目的とする専門学会を直接の会員とし、会員学会相互の情報および意見の交換を通して、藝術に関する學問的研究を振興しその発展をはかる」ことを目的としています。主な催事に、毎年初夏に開催される連合の公開シンポジウムがあり、「この連合に加わる学会員であれば、無料で参加できます。書籍に關連する芸術諸領域の研究動向を窺う得難い機会と言えます。

本学会もこの連合に加盟すべく、理事会で継続的に審議をおいて、加盟に向けて申請を行うことが正式に承認されました。これを受け、11月6日に当該の事務局へ申請書を提出いたしましたので、ご報告申し上げます。結果についても、速やかに会報・HP等でお知らせいたします。

## 各局報告

### ◆企画局 次年度の大会・例会について

次年度の例会は、上掲の「研究発表者募集要項」のとおり開催します。

また、大会は10月24日（土）・25日（日）に前橋市の群馬大学で開催します。詳細は次号の会報でお知らせいたします。

（局長 菅野智明）

### ◆涉外局

#### 学会誌34号「STAGE」登載

3月12日に学会誌『書学書道史研究』34号（2024年10月31日刊行）を独立行政法人科学技術振興機構（JST）運営のJ-STAGE（ジェイ・ステージ）に登載しました。論文5件のほか、特集 杉村邦彦先生の「功劳、講演録、学界展望、書評、新刊紹介を掲載しています。

香港藝術館「香港藏書—香港三大古書画収蔵」、登録無形文化財「書道」特別揮毫会（石川会場）、香港中文大學文物館「北山瑰寶・香港中文大學文物館藏《國家珍貴古籍名錄》碑帖珍本」、春日井市道風記念館「刻された古代日本の書」、観峰館開館30周年特別企画展「王羲之からの手紙—国宝「孔侍中帖」と中国書法名品選一」、東方学会令和7年度秋季学術大会、東洋学・アジア研究連絡協議会シンポジウム「東洋学・アジア研究の新潮流」、日本武道館全日本書初め大展覧会などの情報をお案内しました。

（局長 富田 淳）

### ◆振興局 研究促進助成金制度について

2025年度の募集において、研究計画書の申請が

2件ありました。審査の結果、左記の2件が採択されました。来年度も多数の応募をお待ちしております。

研究代表者：海藤侑里子  
研究課題名：近世期における肉筆資料からみる文字表記の変遷

研究代表者：陳雪添

研究課題名：平安時代中期における玄宗朝書風の受容をめぐる諸問題

（局長 菅野智明）

2024年度採択者（峯岸佳葉会員、浅野泰之会員）の「中間報告書」を受理しました。研究計画を適正に遂行されています。2023年度採択者はいなかつたため、「経費執行報告書（含む領収書）」の提出はありませんでした。

### 学生会員研究発表旅費補助制度について

本学会の大会等に対面参加して研究発表を行う学生会員は、必要とする旅費について本学会から補助を受けることができます。詳細は本学会ホームページに公開しておりますので、ご参照のうえ該当する学生会員の方はぜひご利用ください。

（局長 成田健太郎）

### ◆編集局

#### 『書学書道史研究』第35号の刊行について

2025年10月31日付けで『書学書道史研究』第35号を刊行いたしました。論文6編、第34回大会記念講演録、展望論文、新刊紹介2編を収録しております。ご執筆ならびに論文査読をいただきました各位に厚くお礼申し上げます。

本号も皆さまのおかげをもちまして、充実した誌面となりました。他方で、研究倫理に抵触する投稿論文が1件あり、本事由により不採用となりました。今後も公正な学会誌刊行に向けて対応してまいります。

本件についての具体的な検討は、来年度の新体制において慎重に進めてまいります。会員の皆さまにはご

### 『書学書道史研究』第36号編集に向けて

・投稿申し込みは、2025年12月31日で締め切り（要概要送付）ました。

・「書評」もしくは「新刊紹介」…本誌で取り上げるべき書籍の推薦を随時受け付けております。複数の著作候補が届いた場合には、編集局で対象本を検討して決定いたします。

### ◆会計局 会費引き上げの検討について

いつもご協力いただきまして、誠にありがとうございます。先日の総会で報告いたしましたとおり、ここ数年にわたり赤字決算が続いている状況を受け、会費の引き上げについて検討を進める必要があるとの判断に至りました。先の理事会におきまして、会費引き上げの方向性について審議が行われ、承認を得ております。

（局長 菅のり子）

負担をおかけする」とになりますが、何卒ご理解とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

(局長 増田知之)

◆事務局

会則付則の改正について

10月25日に開催された令和7年度総会において、会則付則の改正が承認されました。除籍となる会員未納年数を3年とし、会員資格を喪失した場合においても未納合算額の請求権を学会が有することを明記するものです。令和6年度総会で承認いたしました本則の改正と合わせ、第19期役員会が発足する令和8年4月1日に実施いたします。

詳しくは、本会HP「書学書道史学会の紹介／会則」ページの末尾のリンクよりご覧ください。

会員名簿について

第19期役員選出選挙にあたり、「会員名簿」を発行します。9月には会員各位に登録データの確認をお願いいたしましたが、その際はご協力ありがとうございました。選挙関連の発送物とあわせて、来月お届けの予定です。

| 令和6年度事業・活動報告 |                         | 9月12日  | 《大会のしおり》《大会レジュメ集》発行   |
|--------------|-------------------------|--------|---|
| 4月21日        | 第1回理事会（オンライン会議）         | 10月25日 | 及び発送  |
| 5月15日        | 第47号《会報》発行及び発送          | 10月26日 | 第3回理事会（定例）（於奈良教育大学）   |
| 6月1日         | 「研究促進助成金制度」申請受付（～7日）    | 10月26日 | 第35回大会一日目（於奈良教育大学）  |
| 6月20日        | 令和5年度決算会計監査             | 10月31日 | 第35回大会（於奈良教育大学）   |
| 6月30日        | 第34回大会発表申込締切            | 10月31日 | 第35号「書学書道史研究」発行及び発送   |
| 7月7日         | 第1回常任理事会（オンライン会議）       | 12月17日 | 第4回理事会（メール会議）   |
| 6月20日        | 2024年度例会（オンラインライブ配信）    | 12月31日 | 第36号「書学書道史研究」投稿申込締切   |
| 6月20日        | 第2回理事会（メール会議）           | 1月15日  | 第50号《会報》発行及び発送  |
| 8月20日        | 《大会のしおり》《大会レジュメ集》発行及び発送 | 2月1日   | 第18期名簿・第19期役員選挙投票通知発送   |
| 9月13日        | 《大会のしおり》《大会レジュメ集》発行及び発送 | 2月24日  | 第19期役員選挙投票締切  |
| 8月20日        | 第2回理事会（メール会議）           | 2月27日  | 2026年度例会発表申込締切  |
| 10月26日       | 第3回理事会（定例）（於大東文化大学）     | 3月1日   | 第19期役員選挙開票  |
| 10月27日       | 令和6年度総会（於大東文化大学）        | 3月8日   | 選挙選出理事による臨時会議   |
| 10月31日       | 第34回大会2日目（於大東文化大学）      | 3月29日  | 第18期・第19期新旧役員合同理事会（オンライン会議）   |
| 11月10日       | 第34号「書学書道史研究」発行及び発送     | 3月31日  | 第36号「書学書道史研究」投稿原稿締切   |
| 12月20日       | 第4回理事会（メール会議）           | 3月31日  | *なお、総会にて承認いたしました令和7年度事業・活動計画において「2026年度例会発表申込締切」を誤って2月28日と記載しておりました。謹んでお詫び申し上げますとともに、右の通り2月27日に訂正させていただきます。 |
| 12月31日       | 第35号「書学書道史研究」投稿原稿締切     |        |   |
| 1月15日        | 第48号《会報》発行及び発送          |        |   |
| 2月28日        | 2025年度例会発表申込締切          |        |   |
| 3月23日        | 第2回常任理事会（オンライン会議）       |        |   |
| 3月31日        | 第35号「書学書道史研究」投稿原稿締切     |        |   |
| 4月20日        | 令和7年度事業・活動計画            |        |   |
| 4月20日        | 第1回理事会（オンライン会議）         |        |   |
| 5月15日        | 第49号《会報》発行及び発送          |        |   |
| 6月1日         | 「研究促進助成金制度」申請受付（～7日）    |        |   |
| 6月21日        | 令和6年度決算会計監査             |        |   |
| 6月30日        | 第35回大会発表申込締切            |        |   |
| 7月13日        | 第1回常任理事会（オンライン会議）       |        |   |
| 7月13日        | 2025年度例会（オンラインライブ配信）    |        |   |

- 氏名・住所・電話番号・ご所属・メールアドレスに変更があった方
  - 学生会員で学籍を離れた方
  - 退会を希望される方
- 学会HP「会員情報変更・退会申込」ページに、事務局へのメールフォームがございますので、ご利用ください。



（局長 尾川明穂）

## 研究余話

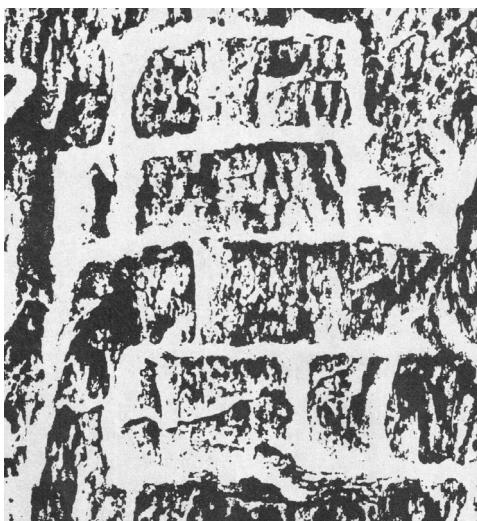
## 班固に關わる石刻二則

下田 章平

班固（32—92）は『漢書』の撰者として著名である。管見の限りにおいて、彼に關わる石刻資料が二件あるのでここで紹介したい。第1の「燕然山銘」は、後漢の永元元年（89）に竇憲（7—92）が北匈奴を打ち破った功績と後漢王朝の威徳が記された磨崖であり、班固の撰文にかかる。2017年、モンゴル国のドンドゴビ県デルゲルハンガイ（中文表記では中戈壁省德勒格爾杭愛）で発見された。班固は外戚として専横を極めた竇憲に近侍して、この遠征にも従事しており、彼が書丹した可能性もある。その後、竇憲はこの遠征によって、朝廷内で権勢を振るつたが、その後には和帝（在位、88—106）暗殺の嫌疑によって自殺し、班固も連坐して獄死した。この銘文には異同があるものの、『後漢書』卷23の竇融伝に附載する竇憲伝や『文選』卷56に收められ、明の董其昌（1555—1636）も題材としている。



「燕然山銘」「麓」字  
(上掲『燕然山銘初拓本』、6頁)



「開通褒斜道刻石」「鹿」字  
(佐野光一解説『開通褒斜道刻石(百衲本)』、  
天来書院、1997、17頁)

第2の「爨龍顏碑」（大明2年、458）には、「……班「班に通ず」彪は漢記を刪定し、班固は道訓を述脩す。爰に漢末に暨び、爨に菜邑し、因りて焉を氏族とす。」とあり、爨氏の祖として班氏が挙げられている。黄永年「碑刻学（下）」（『書論』第29号、1993、160—172頁）によると、この碑を挙げて、魏晋南北朝時代は門閥を重視し、家柄を高門に仮託したものとする。ところで、なぜ直近の祖を班固としたのであろうか。本碑は四六駢儻文で記され、爨龍顏が劉宋の元嘉7年（432）、趙広が益州で反乱を起した際に鎮定に加わったことが記されているように、爨龍顏を頌えるとともに、爨氏の望族としての文武を誇示するものであつたことが窺われる。班氏は春秋の楚を出自とし、班固は上述のように文武両道に長じた人物あり、爨氏の憧憬の対象となつたためであろう。なお、本碑には萩信雄氏の訳注がある（福音雅一編『中国碑帖選』上、玉林堂、1984、349—379頁）ので参照されたい。

刻石」（図下、永平9年、66）と共通し、同時代性が看取される。朝廷の威光を示すためであろうか、磨崖の書にもかかわらず、文字の左右への振幅は抑制的であり、謹厳に、そして整然と書かれている。

## 令和7年度本学会関係者科学研究費採択一覧

- |   |              |  |                                    |  |
|---|--------------|--|------------------------------------|--|
| 学術委員会領域研究 (A) 新規 TELを中心とした高度な歴史学キリスト構築                                  | 中村覚 (東京大学)   | 基盤研究 (B) 繼続 (令和5~) 文化史資料としての抄物の研究 近藤浩之 (北海道大学)                                     | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 繼続 (令和5~) 文化史資料としての抄物の研究 近藤浩之 (北海道大学)                                     |
| ※代表・小風尚樹 (千葉大学) 21,970 千円   |              | 表・萬清行 (北海道大学) 2,990 千円   |                                    | 表・萬清行 (北海道大学) 2,990 千円   |
| 基盤研究 (S) 繼続 (令和3~) シルクロードの国際交易都市スイヤブの成立と変遷—農耕都市空間と遊牧民世界の共存— 福井淳哉 (帝京大学) | 中村覚 (東京大学)   | 基盤研究 (B) 繼続 (令和5~) 人文学の研究  | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 繼続 (令和5~) 人文学の研究  |
| ※代表・山内和也 (帝京大学) 42,640 千円   |              | 方法論に基づく日本の歴史的子キリストのためのデータ構造化手法の開発 中村覚 (東京大学)                                       |                                    | 方法論に基づく日本の歴史的子キリストのためのデータ構造化手法の開発 中村覚 (東京大学)                                       |
| 基盤研究 (S) 繼続 (令和6~) 史料データセ   | 41,210 千円    | 代表・永崎研宣 (一般財団法人人文情報学会研究所) 6,760 千円   | 代表・永崎研宣 (一般財団法人人文情報学会研究所) 6,760 千円 | 代表・永崎研宣 (一般財団法人人文情報学会研究所) 6,760 千円   |
| ・基盤研究 (A) 繼続 (令和3~) 断片的史料情報の集積と歴史知識情報の相互参照体制の確立による新たな史料学構築研究 中村覚 (東京大学) | 中村覚 (東京大学)   | 基盤研究 (B) 繼続 (令和5~) 「探究的な学習」の指導ができる小中学校教員の養成方法の開発と効果検証 横田咲子 (千葉大学)                  | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 繼続 (令和5~) 「探究的な学習」の指導ができる小中学校教員の養成方法の開発と効果検証 横田咲子 (千葉大学)                  |
| ・※代表・西田友広 (東京大学) 4,550 千円   |              | 小山義徳 (千葉大学) 2,730 千円   |                                    | 小山義徳 (千葉大学) 2,730 千円   |
| ・基盤研究 (A) 繼続 (令和4~) 地図調査・解説方法に関する総括的研究と汎用的な歴史地理情報への応用研究 中村覚 (東京大学)      | 中村覚 (東京大学)   | 基盤研究 (B) 繼続 (令和5~) 中国近世における考証学の発展に関する基礎的研究   | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 繼続 (令和5~) 中国近世における考証学の発展に関する基礎的研究   |
| ・井上聰 (東京大学) 4,550 千円  |              | 近藤浩之 (北海道大学)   | 近藤浩之 (北海道大学)                       | 近藤浩之 (北海道大学)   |
| ・タ構造化と関連史料の連携による南北諸島「海上の道」の復元的研究 中村覚 (東京大学)                             | 中村覚 (東京大学)   | 水上雅晴 (中央大学) 3,380 千円   | 水上雅晴 (中央大学) 3,380 千円               | 水上雅晴 (中央大学) 3,380 千円   |
| ・黒嶋敏 (東京大学) 11,310 千円   |              | 基盤研究 (B) 新規 東アジアにおける「筆墨」の現在—伝統的絵画表現の継承と変容に関する調査研究 板倉聖哲 (東京大学)                      | 板倉聖哲 (東京大学)                        | 基盤研究 (B) 新規 東アジアにおける「筆墨」の現在—伝統的絵画表現の継承と変容に関する調査研究 板倉聖哲 (東京大学)                      |
| ・基盤研究 (A) 繼続 (令和5~) 作品誌の観点による半島由来仏教文物の包括的研究 彫刻・繪画・文書を中心化 板倉聖哲 (東京大学)    | 中村覚 (東京大学)   | ・基盤研究 (B) 新規 中国絵画コレクションの移動と現在 代表・板倉聖哲 (東京大学) 2,860 千円                              | 中村覚 (東京大学)                         | ・基盤研究 (B) 新規 中国絵画コレクションの移動と現在 代表・板倉聖哲 (東京大学) 2,860 千円                              |
| ・井手誠之輔 (九州大学) 10,400 千円   |              | 基盤研究 (B) 新規 △を活用した中国本蘭の筆跡分析の方途創出 中村覚 (東京大学)  | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 新規 △を活用した中国本蘭の筆跡分析の方途創出 中村覚 (東京大学)  |
| ・基盤研究 (A) 新規 書誌学とデジタルアーカイブの融合による仮想デジタルライブラリの拠点形成 中村覚 (東京大学)             | 中村覚 (東京大学)   | 基盤研究 (B) 新規 中国絵画コレクションの移動と現在 代表・板倉聖哲 (東京大学) 2,860 千円                               | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 新規 中国絵画コレクションの移動と現在 代表・板倉聖哲 (東京大学) 2,860 千円                               |
| ・成田村覚 (東京大学) 10,920 千円  |              | 基盤研究 (B) 新規 中世日本禪宗史料の学術資源化とその応用研究 中村覚 (東京大学)                                       | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 新規 中世日本禪宗史料の学術資源化とその応用研究 中村覚 (東京大学)                                       |
| ・財団法人東洋文庫 10,920 千円   |              | 基盤研究 (B) 繼続 (令和3~) デジタル文学地図の構築と日本古典文学研究・古典教育への展開 中村覚 (東京大学)                        | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 繼続 (令和3~) デジタル文学地図の構築と日本古典文学研究・古典教育への展開 中村覚 (東京大学)                        |
| ・井手誠之輔 (九州大学) 10,400 千円   |              | 基盤研究 (B) 繼続 (令和3~) デジタルアーカイブの融合による仮想デジタルライブラリの拠点形成 中村覚 (東京大学)                      | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 繼続 (令和3~) デジタルアーカイブの融合による仮想デジタルライブラリの拠点形成 中村覚 (東京大学)                      |
| ・基盤研究 (A) 繼続 (令和4~) デジタル文学地図の構築と日本古典文学研究・古典教育への展開 中村覚 (東京大学)            | 中村覚 (東京大学)   | 基盤研究 (B) 繼続 (令和3~) デジタルアーカイブの融合による仮想デジタルライブラリの拠点形成 中村覚 (東京大学)                      | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 繼続 (令和3~) デジタルアーカイブの融合による仮想デジタルライブラリの拠点形成 中村覚 (東京大学)                      |
| ・中村覚 (東京大学) 2,730 千円  |              | 基盤研究 (B) 繼続 (令和4~) 古文書の書写道教育の実践的研究 教員の「学び観」形成を軸にして 菅のり子 (奈良教育大学) 390 千円            | 中村覚 (東京大学)                         | 基盤研究 (B) 繼続 (令和4~) 古文書の書写道教育の実践的研究 教員の「学び観」形成を軸にして 菅のり子 (奈良教育大学) 390 千円            |
| ・基盤研究 (B) 繼続 (令和4~) 前近代日本の「方国人物図」群が示す人種觀と世界觀に関する総合人文学的研究 成田健太郎 (京都大学)   | 成田健太郎 (京都大学) | 基盤研究 (C) 繼続 (令和4~) 清代の書論における図譜の展開の基礎的研究 高橋佑太 (筑波大学) 1,040 千円                       | 成田健太郎 (京都大学)                       | 基盤研究 (C) 繼続 (令和4~) 清代の書論における図譜の展開の基礎的研究 高橋佑太 (筑波大学) 1,040 千円                       |
| ・杉浦和子 (京都大学) 2,860 千円   |              | 基盤研究 (C) 繼続 (令和4~) 仮名資料の表記の表態と改美書との相関性の分析に基づく表記意識の通時的研究 家入博徳 (ノートルダム清心女子大学) 910 千円 | 杉浦和子 (京都大学) 2,860 千円               | 基盤研究 (C) 繼続 (令和4~) 仮名資料の表記の表態と改美書との相関性の分析に基づく表記意識の通時的研究 家入博徳 (ノートルダム清心女子大学) 910 千円 |
| ・※代表・高山大毅 (東京大学) 3,380 千円   |              | 基盤研究 (C) 繼続 (令和4~) 古文書の書写道教育の実践的研究 教員の「学び観」形成を軸にして 菅のり子 (奈良教育大学) 390 千円            | ※代表・高山大毅 (東京大学) 3,380 千円           | 基盤研究 (C) 繼続 (令和4~) 古文書の書写道教育の実践的研究 教員の「学び観」形成を軸にして 菅のり子 (奈良教育大学) 390 千円            |

連手稿群の分析にもとづくルソーの道德思想形成に関する文献学的研究 中村覚（東京大学）※代表・飯田賢穂（筑波大学）1,170千円

基盤研究（C）継続（令和6～）『説文解字』における書体の認識 山元宣宏（宮崎大学）910千円

基盤研究（C）新規 近代朝鮮における女性書家・書画家の活動とその展開―妓生出身者を中心とした研究 金賀粉（津田塾大学）1,950千円

基盤研究（C）新規 小学生の多様な電子的文書入力の実態と、国語習得度との関連の解明 鈴木慶子（長崎大学）※代表・松崎泰（東北大）2,210千円

基盤研究（C）新規 康熙年間における正統派文人画の確立過程に関する研究 飛田優樹（公益財團法人黒川古文化研究所）1,170千円

基盤研究（C）新規 言語データ連結システムの開発と古代エジプトの文字語を対象とした言語記述の実践 中村覚（東京大学）※代表・永井正勝（筑波大学）2,750千円

基盤研究（C）新規 平安期における天台論義資料の多角的研究 野田悟（高野山大学）※代表・道元徹心（龍谷大学）910千円

挑戦的研究（萌芽）新規 外見描写と内面評価の相關性史―創発的学際的協働研究 中村覚（東京大学）※代表・永井久美子（東京大学）2,340千円

若手研究 新規 後漢時代中期における楷書萌芽の様相とその形成過程に対する基礎的研究 井田明宏（安田女子大学）330千円

研究活動スタート支援 継続（令和6～）日本古代の漢文創作における中国文学の受容について―庚信碑誌文を中心とした研究 陳錦清（三重大学）130千円

\* 本会員の採択課題に限ったが、会員が研究分担者で、研究代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題に関しては、当該課題のもとに代表者と分担者とを併記した。所属の後の数字は、令和7年度のみの補助金の配分額。

なお、事業期間を本年度まで延長した課題については、（）に挙げていない。

## 会報の歩み

会報50号を記念し、これまでの会報からほぼ1頁以上の記事を掲げました。学会HPに全号のPDFデータが掲載されていますので、興味のある方はご覧ください。



《書学書道史学会会報》

第1号

平成13年(2001)6月発行

## 広報局

- 角井博「隨想・真偽問題」晴耕雨読の身に思つ  
名見耶明「書学藻塙草」美術史界と寄合書  
河内利治 第5回中国書法史論国際研討会報告  
池田温「視点」書学書道史学会への期待  
興膳宏「追悼」大庭脩先生を悼む  
大野修作「書学藻塙草」「エリオットコレクション」と宋元の名蹟 展から  
高城弘「Today's Feature」新出の「本願寺兼輔集切」
- 第1号 興膳宏 いあいわい  
西林昭「Today's Feature」新出土史料の一斑  
古谷稔「書学藻塙草」原本が摸本かの鑑識の方法  
杉村邦彦「隨想・先達の思い出」中田先生と鉛筆  
第2号 松丸道雄「視点」最古の漢字発見への期待  
新井光風「Today's Feature」〈包山楚簡〉に見える「事」の字形  
野中浩俊「書学藻塙草」鐵齋の書翰解説  
新編「日本・中国・朝鮮／書道史年表字典」(仮称)  
刊行のお知らせ
- 第3号 大庭脩「Today's Feature」最近の中国木簡研究  
事情  
藤木正次「書学藻塙草」唐の歎州硯について  
田中有「隨想・先達を想う」西川寧先生 生誕百年  
に思う  
中村伸夫「新刊紹介」新知見の宝庫—西林昭一著  
『中国新発見の書』
- 第4号 浦野俊則「視点」周金文研究雑感
- 第5号 横田恭三「隨想」想定の範囲外  
笠嶋忠幸「博物館・美術館紹介」出光美術館
- 第6号 学会のあゆみ・歴代役員一覧  
木下政雄「視点」古筆切における筆者伝称と書格  
の表示について  
石田肇「隨想」筆者体と活字体
- 第7号 事務局「緊急報告」日本学術会議の「登録学術研究団体」制度の廃止について  
福田哲之「隨想」上海博物館蔵戰國楚竹書「周易」の書風
- 第8号 古谷稔 第15回書学書道史学会大会記念シンポジウム基調講演「和の心—書の文化継承に向けて—」(要旨)
- 第9号 鈴木晴彦「追悼」藤木正次先生を悼む  
大橋修一「隨想」学会15年目を迎えて  
杉浦妙子「書学藻塙草」日下部鳴鶴と彦根  
富田淳「博物館・美術館紹介」東京国立博物館  
中村伸夫「書道史事典」編集完了報告  
澤田雅弘「ノート」瑣事—「宋拓善才寺碑」と王澍の題籤・題跋
- 第10号 大橋修一 東洋学「アジア研究」連絡協議会の発足について  
鈴木晴彦「書学藻塙草」助さんの調査
- 第11号 古谷稔 理事長就任にあたって  
鶴田一雄「書学藻塙草」大英図書館蔵・敦煌文献の調査について  
森岡隆「私の工具書」日本書道史の方法  
下野健児「隨想」受け手の養成
- 第12号 萱のり子 第17回大会報告  
魚住和晃「特別報告」第5回書法文化書法教育国際会議を開催して  
名見耶明「私の工具書2」展示カタログ・茶道関連書の活用  
柿木原くみ「書学藻塙草」高島菊次郎翁と「飲中の仙歌」  
山本まり子「投稿」『和漢朗詠集』葦手本と戊辰切について  
萱のり子 文化の架橋  
浦野俊則「研究余話」削除・改刻された甲骨文字  
菅野智明 第18回大会報告
- 第13号 福田哲之「私の工具書3」写し伝えられた古代の漢字たち—徐在國編『伝抄古文字編』—  
河内利治「視点」国際会議の現状と将来  
澤田雅弘「研究余話」国宝と筆法の怪しい関係—筆法観の見直しと工房形態解明へのアプローチ—
- 第14号 鈴木晴彦「研究局」新設へ向けて  
魚住和晃 第19回大会の会場校を経験して  
富田淳「研究余話」題跋識語に見る翁方綱と李宗

|  |   |  |
|--|---|--|
| 中村伸夫「 <u>隨想</u> 」黄賓虹故居のこと                                      | 萩信雄「 <u>研究余話</u> 」読めない文字を読む                               | 山本堯「招待発表報告」山本堯氏「殷周金文の復元鑄造」発表要旨                         |
| 岸田知子「 <u>書学藻塙草</u> 」些話一題、空海の書をめぐつて                             | 古谷稔「 <u>視点</u> 」北大漢簡『老子』の隸書について                           | 中村伸夫「 <u>視点</u> 」「書きぶり」の捉え方                            |
| 池田利広「 <u>視点</u> 」臨書雑感  | 鈴木晴彦「 <u>研究余話</u> 」第20回書学書道史学会大会を終えて                      | 河内利治「 <u>視点</u> 」将来構想委員会(仮称)設置に向けて                     |
| 第17号 古谷稔「 <u>視点</u> 」学会創設20周年を迎えて                              | 森岡隆「 <u>研究余話</u> 」万葉歌最古木簡の発見                              | 高橋利郎「 <u>視点</u> 」文化財としての近代の書                           |
| 第18号 鈴木晴彦「 <u>研究余話</u> 」第20回書学書道史学会大会を終えて                      | 菅野智明「 <u>私の工具書4</u> 」清末文人の日記                              | 弓野隆之「 <u>視点</u> 」「揚州八怪」展の開催をめぐつて                       |
| 第19号 大橋修一「 <u>視点</u> 」理事長就任に当たつて                               | 信廣友江「 <u>研究余話</u> 」第21回書学書道史学会大会を終えて                      | 中村伸夫「 <u>視点</u> 」新たな社会状況の中で                            |
| 第20号 荒金信治「 <u>研究余話</u> 」眞偽について                                 | 萱のり子「 <u>視点</u> 」身体でわかる「型」の経験                             | 萩信雄「 <u>研究余話</u> 」書道領域拡大への願い                           |
| 第21号 小川博章「 <u>視点</u> 」河洛古代石刻芸術館                                | 鍋島稻子「 <u>隨想</u> 」「藏番」の使命                                  | 佐野光一「 <u>シンポジウム報告</u> 」講演会「漢隸の成立」要旨                    |
| 第22号 森上洋光「 <u>隨想</u> 」「温故」を貫く研究室                               | 森上洋光「 <u>隨想</u> 」「温故」を貫く研究室                               | 魚住和晃「 <u>研究余話</u> 」書道領域拡大への願い                          |
| 第23号 中村伸夫「 <u>大震災の中で</u> 」                                     | 澤田雅弘「 <u>研究余話</u> 」第22回書学書道史学会大会を終えて                      | 増田知之「 <u>視点</u> 」中朝書法史における比較研究の試み—法帖の刊行を例として—          |
| 第24号 笠嶋忠幸「 <u>視点</u> 」世代交代と研究方法                                | 古谷稔「 <u>書学藻塙草</u> 」行成の「夢」—「 <u>權記</u> 」の記事をめぐつて—          | 河内利治「 <u>コンプライアンスと研究倫理</u> 」                           |
| 第25号 大橋修一「 <u>理事長再任にあたり</u> 」                                  | 荒金信治「 <u>研究余話</u> 」第23回書学書道史学会大会を終えて                      | 中村史朗「 <u>視点</u> 」第27回書学書道史学会大会を終えて                     |
| 第26号 安達直哉「 <u>視点</u> 」書跡文化財などの地域で保存すべきか                        | 安達直哉「 <u>視点</u> 」書跡文化財などの地域で保存すべきか                        | 笠嶋忠幸「 <u>パネルディスカッション報告</u> 」要旨「書学・書道史学と美術館・博物館の連携を考える」 |
| 第27号 神野雄二「 <u>研究余話</u> 」山田正平50年忌に寄せて                           | 中根安治「 <u>研究余話</u> 」山田正平50年忌に寄せて                           | 杉村邦彦「 <u>講演会報告</u> 」杉村邦彦氏講演「明治初期の巖谷一六とその書法—新出の『巖谷一六    |
| 第28号 大橋修一「 <u>書学書道史学会の今</u> 」                                  | 横田恭三「 <u>研究余話</u> 」横田恭三「 <u>研究余話</u> 」横田恭三「 <u>研究余話</u> 」 | 期の巖谷一六とその書法—新出の『巖谷一六                                   |
| 第29号 横田恭三「 <u>研究余話</u> 」横田恭三「 <u>研究余話</u> 」横田恭三「 <u>研究余話</u> 」 | 澤田雅弘「 <u>研究余話</u> 」第28回書学書道史学会大会を終えて                      | 笠嶋忠幸「 <u>パネルディスカッション報告</u> 」要旨「書                       |
| 第30号 角田勝久「 <u>追憶</u> 」鶴田一雄先生とのお別れ                              | 第31号 沢田雅弘「 <u>研究余話</u> 」第29回書学書道史学会大会を終えて                 | 学・書道史学と美術館・博物館の連携を考える」                                 |
| 第31号 永由徳夫「 <u>研究余話</u> 」日本書論はいつから(秘伝書)になつたのか                   | 第32号 鈴木晴彦「 <u>研究余話</u> 」第30回書学書道史学会大会を終えて                 | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第32号 萱のり子「 <u>シンポジウム報告</u> 」伝承と生成のかた                           | 第33号 鈴木晴彦「 <u>研究余話</u> 」第31回書学書道史学会大会を終えて                 | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第33号 第34号 沢田雅弘「 <u>研究余話</u> 」第32回書学書道史学会大会を終えて                 | 第34号 沢田雅弘「 <u>研究余話</u> 」第32回書学書道史学会大会を終えて                 | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第34号 第35号 中根安治「 <u>研究余話</u> 」中根安治「 <u>研究余話</u> 」               | 第35号 沢田雅弘「 <u>研究余話</u> 」第33回書学書道史学会大会を終えて                 | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第35号 第36号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第36号 沢田雅弘「 <u>研究余話</u> 」第34回書学書道史学会大会を終えて                 | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第36号 第37号 中根安治「 <u>研究余話</u> 」中根安治「 <u>研究余話</u> 」               | 第37号 沢田雅弘「 <u>研究余話</u> 」第35回書学書道史学会大会を終えて                 | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第37号 第38号 富田淳「 <u>研究余話</u> 」富田淳「 <u>研究余話</u> 」                 | 第38号 富田淳「 <u>研究余話</u> 」富田淳「 <u>研究余話</u> 」                 | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第38号 第39号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第39号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第39号 第40号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第40号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第40号 第41号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第41号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第41号 第42号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第42号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第42号 第43号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第43号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第43号 第44号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第44号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第44号 第45号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第45号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第45号 第46号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第46号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第46号 第47号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第47号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第47号 第48号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第48号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |
| 第48号 第49号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 第49号 中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」中村伸夫「 <u>研究余話</u> 」               | 河内利治「 <u>河内利治</u> 」                                    |

## 談話室

## 修正線の数

荒金 治

父荒金大琳が雁塔聖教序の原石の写真撮影に成功し、拡大写真を公開して、27年が経ちました。写真の整理など共同で作業を進めることが多かつたのですが、褚遂良が修正をしたという点では意見が一致していました。しかし、修正線の判断においては、意見が分かれました。修正線という判断に対しても反対派も多いため、誰が見ても納得のいく箇所のみを修正箇所としていたのです。しかし、観察を重ねていくと修正に見える箇所が多いことに気がつきました。文字全体を大きくするという目的を考慮すれば、同時に複数の修正があるということになるのですが、二人の間では何年も議論を続けていました。改めて今思うのは、父が1998年に発表した修正線の数を変えるなかった背景には修正線の存在を守りたいといった意識があつたのかもしれない。

## 下町文人の中華趣味

陶 花源

本年、成田山書道美術館では「幕末明治の下谷文人」が開催され、大田蜀山人・亀田鵬斎・市河米庵などの書家の作品が

展示された。江戸末期、長崎港の開港や幕府の儒学政策などを背景として、明末清初の中国文化が江戸の市井にも静かに姿を現した。書家を個別に研究するだけでなく、彼らのもう一つの側面、「文人」としての姿勢に目を向けることで、その群像をより的確に捉えることができる。なかでも象徴的な展示作品は、文化13年に制作された、亀田鵬斎・酒井抱一・菊池五山・市河寛斎・市河米庵による合作書画幅である。こうした形式は、当時の書家らが中国文化を学ぶにあたって、単に書の技法の学習にとどまらず、生活様式にまで踏み込んだ全面的な受容を行っていたことを示している。本展は文人文化の視角から、江戸期文人書法の一側面を明らかにするものとなっていました。

日比野五鳳記念美術館へ

中井 希

11月8日、岐阜県安八郡神戸町にある日比野五鳳記念美術館へ行つてきた。五鳳美術館へは春季、秋季展を合わせて年に2回以上、これまでに10回ほど、書作のヒントを求めて、そして、良い作品に出会う豊かな時間を求めて出かけていました。

私はどつての真蹟の魅力は、「線」と「空間」の二つにある。「線」は、まるでコンサート会場で身体に響く「声」や「音色」のように、先人の息遣いが運筆を通して饒舌に語りかけてくる。「空間」は、刷り物のように省略処理された色相ではなく、「表装」や「紙絹質」といった素材の質感に身体で対峙し、ある種の匂いを嗅ぐような感覚である。美術の教科書で見る「最後の審判」と、システム一礼拝堂で能動的に見るそれが異なるように、真蹟は見る者の身体性を伴つて初めて立ち上がる。

谷倉韻先生に宛てた、祝辞原稿とペン字の手紙である。図録でしか見たことのなかつた書であるが、ともに、まず、文字が大きい。一文字一文字をじっくりと眺め、その文字造形を味わい、線をたどり、切にしていきたい。

間合いに心を寄せる、と、顏真卿の《祭姪文稿》を見たときのような感動に包まれた。五鳳先生の文字造形、自然な流れやリズム感は、近寄りがたいが本当に心地良い。

ペン字は、まねようと思つても到底まねることのできない、そんな風趣に富んでいた。

## 真蹟の魅力

西村 大輔

2025年10月、台北市の故宮博物院にて、米芾「蜀素帖」、蘇軾「赤壁賦」、黃庭堅「松風閣詩卷」をガラス越しに幾度も見返し、約四時間その場を離れられなかつた。改めて、真蹟に触れるこの楽しさを実感した。

## 編集後記

◆文物出版社から朱明『碑帖述影錄』が刊行されました。これまで拓本の新旧を調べるには、『増補校碑隨筆』や仲威『中国碑拓鑑別圖典』が簡便でしたが、当該書は民国期の石印本から本邦の影印本、そして近年、中国で出版された影印本までを網羅しており、非常に資料性が高いものとなっています。『近代影印善本碑帖錄』(上海書画出版社)とあわせて必携の工具書となりました。(高橋佑太)

◆先日、年末に向けて部屋の掃除をしていたところ、自分の卒業論文と修士論文が出てきました。今では里耶秦簡について研究していました。今では伊秉綬の書がテーマ。当時集めていた資料なども一緒に見つかり、懐かしさが込み上げてきたと同時に、改めて論文を読み返すと、今も昔も論拠の弱さはあまり変わっていないと感じ、思わず猛省してしまいました。

(村田 萌)

◆樺崎華祥先生が昨年9月29日に長逝されました。最期まで筆を握り、新作を世に問う続けた101年だった。書には古いの美学と言い得る面があるだろう。佐理の「頭弁帖」、菘翁の中風書き、越南の墨跡風。書に積み重ねてきた人生の厚みが宿ることは書譜にも触れている。最期の年の樺崎先生の書にも、狙つては表現することのできない老いの風韻があつた。

(高橋利郎)